

ひとはくの分館となったかもしれない「兵庫県昆虫館」



自然・環境再生研究部 コミュニケーション・デザイン研究グループ

八木 剛

兵庫県千種川グリーンライン昆虫館（兵庫県昆虫館）は、1971年5月、西日本初の昆虫生体展示施設として開館した。それから約20年後、1992年10月に兵庫県立人と自然の博物館（ひとはく）が、開館した。

ひとはく開設の際、同じ兵庫県立の自然系施設である昆虫館は、「分野的にひとはくの所管とすることが適当であり、分館を含め検討」とされていた。そのため、[†]中西明德氏、[†]大谷剛氏らは、準備室時代からひとはく開館後もその実現に向けて努力を続けられた。しかし、諸事情が許さなかったのだろう。ついで所管替えは叶

わず、施設や人材に関する昆虫館の問題点は先送りされ、後の行財政構造改革によって県は廃止を決定。2008年3月、兵庫県昆虫館は37年の歴史に幕を閉じた。

刀折れ矢尽きたが、そこに救世主が現れ、廃止となった昆虫館は翌2009年4月、佐用町の施設として復活を遂げた。今、ひとはくは佐用町昆虫館と連携に関する協定を結び、活動を後押ししている。

先人たちの昆虫館への思いが新たな形で継承、展開されていることを、ここに記しておきたい。

【参考文献】八木 剛, 2019. 佐用町昆虫館 10年間の活動報告. きべりはむし, 42 (1): 10-19.



兵庫県昆虫館のパンフレット



昆虫館を視察する自然系博物館（仮称）開設準備室の職員ら
左から二人目は[†]加藤幹太準備室長、三人目は[†]内海功一昆虫館長。肩書きはいずれも当時。1991年7月19日。

(作成課 ■■■■■ 課)

事項	区 分
県立自然系博物館（仮称）の開設	新規テーマ 分 その他

神戸三田国際公園都市、三田市弥生が丘に建設を進めている県立自然系博物館（仮称）が平成4年10月にオープンする。

1 目的
県政の重要施策である「こころ豊かなづくり」、「さわやかな土づくり」の趣旨を踏まえ、本県の豊かで多彩な自然環境を基盤に、県民自らが自然と生命の尊さを学ぶことを基本理念とする国際的視野にたつ博物館を開設する。

2 設置場所
三田市弥生が丘 深田公園内（ホロンピア館を活用）

7 県立昆虫館（佐用郡雨光町館址：■■■■■課所管）の取扱いについて
自然系博物館（仮称）の所管分野であり、所管することが適当と思われる。ただ、建物の老朽化及び専門職員の高齢化等の現状における問題点があるため、開館時に所管替えを行い、博物館の全体計画の中で分館を含め検討したい。平成4年度は、当面の対策として専門職員1名の配置を要望したい。

ひとはく開設にあたっての行政文書
昆虫館の取扱いが課題として挙げられていた。1991年。



佐用町昆虫館とひとはくとの連携協定調印式の一コマ
後列左端は[†]内海功一前兵庫県昆虫館長。同右端は庵途典章佐用町長、隣に内藤親彦佐用町昆虫館長（NPO法人こどもとむしの会理事長）、続いて中瀬勲ひとはく副館長（岩槻邦男館長の職務代行者として）。肩書きはいずれも当時。2009年8月9日。



現在の佐用町昆虫館
展示の見学から来館者とのコミュニケーションを重視するスタイルへ転換。季節開館、休日開館とし、職員を置かずボランティアによって運営されている。2025年6月。